

IT 活用実践事例

小学校
6年 / 総合

百年後の地球を考えよう

実践者：美里町立中埴小学校 及川 宏子

1 学習の概要

キーワード

e - 黒板の活用

プレゼンテーション

校内LAN

視点の一致を図る

IT 活用のポイント

- ・ 現在地球的規模で進んでいる環境破壊の問題を、「百年後の地球は」という視点でとらえて調べ活動をした。その結果をプレゼンテーション（キューブきっず）としてまとめた。
- ・ コンピュータ室で各自作成したデータを校内LANを接続して教室のe - 黒板で提示しながら発表する。

単元名

百年後の地球を考えよう

単元の目標

自分たちの日常生活が電気及び化石燃料に依存していることに気づき、将来の資源不足や環境保全に向けて、家庭や学校、地域での省エネルギー行動への取り組みについて考える。

本時の学習

自分の取り組みをまとめて発表する。

本時の目標

現在起きている環境問題や地球温暖化の現象から、身近にある問題点を見直し、改善していこうとする態度を育てる。

本時の活用コンテンツ

- ・ e-黒板
- ・ キューブきっず(スズキ教育ソフト)

補助資料

単元計画 (30 時間扱い)

みつける (3 時間)

資源の枯渇が予想されるデータや本をインターネット等から収集し、石油や電気に依存している生活の現状を知り、省エネルギーについての課題をつかむ。

ひろげる・ふかめる (15 時間)

電気を無駄遣いしていないかという問題に対して、電気消費量を調べる見通しを立て、学校や家庭の電気製品の使用量を調べる。

まとめる (12 時間)

現在地球規模で進められている省エネルギー、環境保全対策の現状を知る。

本時の学習 (45 分)

学習活動

1 これまでの取り組みをまとめたプレゼンテーションを一人一人発表する。

2 自分の発表をとおしてこれまでの取り組みを振り返る。

3 友達の発表を聞きながら視野を広げ、未来に対するいろいろな考えを持つ。

指導上の留意点

・ 学級全員に聞こえる声の大きさを意識させる。

・ 自分が伝えたいポイントをゆっくりと伝えていかに発表させる。

・ 友達の発表を聞きながら、自分の考えとの違いや友達の考えから学ぶこと等をメモしながら聞くようにさせる。

2 実践のポイント！

一人一人が主体的に

子どもたち一人一人が、自分で資料を検索し、丹念にプレゼンテーションを作成した。インターネット等で検索する方法も次第に身について、自分の欲しい情報を探し当てながら作成していた。

視点の一致

e - 黒板を活用することにより、子どもたちの視点を集中させることができる。写真やグラフ、図や絵の資料を中心として構成されたプレゼンテーションに、子どもたちの意識が集中し、飽きることなく最後まで発表をきくことができると思う。

視覚的にとらえる工夫

プレゼンテーションソフトを活用し、子どもたちは自分で発表資料を作成した。自分たちの作成した資料を拡大された画像として映し出すことは、説明を助けるものとして、十分な役割を果たしている。

目的意識が技能を高める

自分の伝えたいことをどうしたら分かりやすく表現できるか、より分かりやすい資料はないか等それぞれが作成しながら工夫することで、操作や作成の技能が自然と高まっていた。また、同じことばでも、文字の色や背景を工夫することで効果的に提示できることも分かってきた。

3 子どもたちは？

子どもの姿

5年生で取り組んだ総合的な学習の時間の「地球環境と省エネルギー」の延長上にある学習である。子どもたちは5年生で取り組んでいることをもとにして、もっと幅広く資料を検索し、より自分のねらいに沿った説得力のあるプレゼンテーションを作成すべく頑張っていた。資料の中に長い説明文をつけてしまう傾向があったが、受け取る側の立場で考えて、見やすい画面の作成を心がけるように指導した。

子どもの声

- ・情報教育担当の先生が環境問題に関する資料をたくさん取り出して用意してしてくれたので助かった。
- ・見やすい画面についてあまり考えたことがなかったが、文字を少なくし、写真や図を大きく提示することで見る人に分かりやすくなることが分かった。